

ニッケイ俳壇

(729)

星野 瞳 選

新津 雅陽

○聖市東本願寺の輪番を勤められた作者の御
主人東雪師の分骨は、聖市東本願寺にされた
のである。

ボツボラガ

青木 駿浪

南天の茂りし狭庭の淑氣かな

百日紅妻病に耐ゆる日々

野に伸びて丈そのままで草いきれ

厨中菜飯が匂ひ母ありし

百姓に南瓜も売れて年用意

万緑をかぶり餅搗く素つ裸

○ブラジルに来ていた北国の鳥たちは、春深く

なる頃、北の国へ帰っていく。その頃の空は

「鳥雲り」になる。「鳥雲り」と云う季題が

あつたのを始めて知った。歳時記で見ると春

の季節中一番あと季題に「穀雨」百穀春雨に

潤るおち、がある。「鳥雲りの雨などだと

解った。

セーラードスクリュースタイス 樋口玄海児

老いし吾に蛙の声の涼しかり

むすかしき健康管理け易し

一と皿は筍サラダ忘年会

○現存の念腹門で一番若いのが作者だと思うの

だが、自から「老いし」と決めるのは「健康管理

理」第一条に反するものだと思う。「俺はまだ

若い」と云うべきだ。切にそう云つてほしい。

願む。

北邊道・旭川市

初雪が根雪となりしくらしかな

分骨の夫はるかな春聖市

文を書く陽ざさしき雪の窓

○世の中を変えると連呼吹雪く中

○先頃の衆院選挙の候補者が「世の中」と呼

んだのである。雪の中で。

西谷 律子

細ほそと一人の暮し花桔梗

ナビハイ

小原 加代

百日紅陽をため込みて咲き溢れ

髪切つて捨てるもの捨て身涼し

草も萎えからだも萎える炎暑かな

サンバウロ

病む母も家族の輪の中お正月

飄々と生き飄々と春逝きぬ

サルスベリのやさしき蔭の停留所

たんぽぽの命の重さぶらさげて

サンバウロ

打ち水にはてりの残る風寄せて

よきことを耳うちされ春の風

おくれ毛の陽にきらめける春の風

地を這ふて風立てゆく大夕立

サンバウロ

細ほそと一人の暮し花桔梗

ナビハイ

玉田千代美

直角なビルの林に初日の出

百日紅妻病に耐ゆる日々

野に伸びて丈そのままで草いきれ

カンドスドジョルドン

鈴木 静林

南天の茂りし狭庭の淑氣かな

百日紅妻病に耐ゆる日々

野に伸びて丈そのままで草いきれ

カンドスドジョルドン

